



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

2022年度 体験活動プログラム 活動報告



体験型活動ワーキンググループ

2023年3月31日

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	4
III	体験活動プログラム活動報告会.....	31
IV	付録	
	・ 体験活動プログラム概略.....	35

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部学生及び大学院学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成24年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成24年度には176名が活動に参加、さらに平成25年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学生を様々な体験の場に送り出しています。

●2022年度体験活動プログラム実施データ

〈プログラムの件数および募集人数〉

○ 提供プログラム数：74件、活動実施プログラム数：72件、募集人数：542名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	46件（62%）	45件（63%）	286名（53%）
海外プログラム	20件（27%）	20件（27%）	210名（39%）
研究室プログラム	8件（11%）	7件（10%）	46名（8%）
全プログラム	74件（100%）	72件（100%）	542名（100%）

〈応募、参加状況〉

- 全プログラムでの募集人数542人に対し、応募者数は752名（139%：募集人数比）、応募者のうち、参加者数は422名（56%：出願者数比）。
- 国内プログラムは募集人数286名に対し、応募者数は393名（137%：募集人数比）、応募者のうち、参加者は237名（60%：出願者数比）。
- 海外プログラムは募集人数210名に対し、応募者数は323名（154%：募集人数比）、応募者のうち、参加者は165名（51%：出願者数比）。
- 研究室プログラムは募集人数46名に対し、応募者数は36名（78%：募集人数比）、応募者のうち、参加者は20名（56%：出願者数比）。

区分	募集人数	応募者	参加者	不採択者
国内プログラム	286名	393名 〈137%〉	237名 《60%》	156名 《40%》
海外プログラム	210名	323名 〈154%〉	165名 《51%》	158名 《49%》
研究室プログラム	46名	36名 〈78%〉	20名 《56%》	16名 《44%》
全プログラム	542名	752名 〈139%〉	422名 《56%》	330名 《44%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は応募者数との比率

なお、プログラムに応募し、不採択となった者が別のプログラムに応募しているため、応募者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、応募者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

〈採択者の属性〉

◆男女別内訳

- 参加者422名の男女別内訳は、男子学生が228名（54%）、女子学生が194名（46%）。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	228名 (54%)	194名 (46%)	422名 (100%)

◆学年別内訳

- 参加者422名のうち、学部前期課程学生は179名（42%）、学部後期課程学生は156名（37%）。大学院学生87名（21%）。
- 参加者422名の学年別内訳は、1年生69名（16%）、2年生110名（26%）、3年生82名（19%）、4年生72名（17%）、5年生1名（0%）、6年生1名（0%）、修士1年生34名（8%）、修士2年生28名（7%）、博士1年生5名（1%）、博士2年生6名（2%）、博士3年生2名（1%）、専門職学位1年生4名（1%）、専門職学位2年生4名（1%）、専門職学位3年生4名（1%）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	男子	女子
法			7	26			33	16	17
医			3	1	1	1	6	2	4
工			27	13			40	32	8
文			9	4			13	9	4
理			7	2			9	6	3
農			7	3			10	4	6
経済			6	11			17	14	3
教養	69	110	13	10			202	93	109
教育			2	2			4	1	3
薬			1				1	0	1
計	69	110	82	72	1	1	335	177	158

教養学部欄の「1年」、「2年」の欄は、前期課程の学生を示す。

	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	専門職 学位1年	専門職 学位2年	専門職 学位3年	計	男子	女子
人文社会系	4								4	2	2
教育学	3	1	1						5	2	3
法学政治学						1	1	4	6	1	5
経済学											
総合文化	1	1							2	1	1
理学系	1	2		1					4		4
工学系	8	9	2	2	2				23	16	7
農学生命科学	4	3		1					8	4	4
医学系			1				1		2		2
薬学系	1	1	1	1					4	3	1
数理科学											
新領域創成科学	9	5		1					15	14	1
情報理工学系	1	3							4	4	
学際情報	2	1							3		3
公共政策学		2				3	2		7	4	3
計	34	28	5	6	2	4	4	4	87	51	36

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	15	6	21	16	10	1	69
(国内)	5	3	12	7	5	1	33
(海外)	9	3	8	6	4	0	30
(研究室)	1	0	1	3	1	0	6
2 年	13	24	24	25	16	8	110
(国内)	10	10	12	13	6	1	52
(海外)	3	13	9	10	9	5	49
(研究室)	0	1	3	2	1	2	9
計	28	30	45	41	26	9	179

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称	ページ数
A1 療育を知ろう	6
A2 地域包括ケア体験プログラム	6
A3 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのボランティア活動	6
A4 TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	7
A5 環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	7
A6 高校魅力化プロジェクト～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決、価値創造～	7
A7 工学系日本語教室でのボランティア	8
A8 自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～	8
A9 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験	8
A10 未来を指向する地方自治体の活動への参加	9
A11 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～	9
A12 JICAの国内の現場で国際協力を知る	9
A13 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくりえない旅行プラン@KYOTO～	10
A14 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～	10
A16 農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	10
A17 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	11
A18 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「漫才ワークショップ」	11
A19 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「(仮) 大型お笑いフェス」	11
A20 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学東大×吉本 同期ライブ「笑いの傾向と対策 令和4年度版」	12
A21 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「相撲部屋体験入門」	12
A22 おじゃり申せ種子島！宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）	12
A23 岩手県花巻市大迫ぶどう色の4日間 2022夏	13
A24 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	13
A25 ラムサール条約湿地「穴道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える	13
A26 森の人になろうー森と暮らす仕事	14
A27 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	14
A28 伊豆の体験活動ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー	14
A29 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	15
A30 渋谷のまちづくりと子ども・子育て支援の取り組みを知ろう	15
A31 「東大の森」の教育研究を支えよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	15
A32 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	16
A33 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～	16
A34 日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える	16
A35 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	17
A36 「クリケット」を通じて世界を知ろう！～クリケットを通じた国際交流～	17
A37 不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形	17
A38 陶板名画美術館におけるスタッフ体験	18
A39 聖地熊野の歴史文化と自然体験し、地域振興を考える	18
A40 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう	18
A41 どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）	19
A42 暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える～京都府亀岡市～	19
A43 地域住民の健康を守るために医療機関が行う地域活動体験プログラム	19
A44 まちを変える、まちが変わる～（株）豊島区 体験入門～	20
A45 野宿学（雪国編）「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」	20
A46 帰還困難区域の「街づくり」を考える。	20

海外プログラム名称

ページ数

B1	中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流	21
B2	大学・企業・文化体験 in 韓国2022年ー韓国を知る、韓国から日本を見るー	21
B3	シンガポールでビジネスを学んでみよう	21
B4	TOPS2022 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2022)	22
B5	英国ロンドン、海外で働くとは	22
B6	VE_italia・Veneto Experience	22
B7	スウェーデン王立工科大学 (KTH) での体験活動 日本語授業サポートと学内企業訪問	23
B8	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	23
B9	アラブ首長国連邦の「いま」	23
B10	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	24
B11	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT	24
B12	アメリカで仕事をするこの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	24
B13	米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動	25
B14	グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【オンライン】	25
B15	グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【渡航】	25
B16	日本からカナダへ〜留学と就職を通してカナダのマルチカルチュアリズムを体験する〜	26
B17	Sustainable agriculture experience at Organic Farm (USA)	26
B18	ニューイングランド有機農場 での Community Supported Agriculture 体験 (米国)	26
B19	シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験	27
B20	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！〜ハノイの学生・企業等との交流 (訪問先はオーダーメイドで調整可能) 〜	27

研究室プログラム名称

ページ数

C2	先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験	28
C3	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	28
C4	生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門	28
C5	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	29
C6	みんなで翻刻ソン	29
C7	DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2022・夏季プログラムへの参加	29
C8	知能移動ロボットの行動と制御	30

【国内プログラム】

A1. 療育を知ろう

活動は外来見学、療育・リハビリの観察、通所施設での実習の三部構成で行われた。外来では、発達障害や心身障害を持つ方々とその保護者の悩みを聴くと共に、個々のニーズに応じた対応を学んだ。療育やリハビリでは、目標に向けた具体的な活動、例えば手先の器用さの強化や発音の明瞭化、集団でのコミュニケーションスキルの向上等を観察した。通所施設では、重度心身障害を持つ成人の生活支援に関与し、彼らとの交流から意思疎通の可能性を体感した。実習を通じて、言葉がなくとも人間の感情や意志は伝わることを確認した。子どもたちと交流することで、彼らから得た無邪気さと喜びが私に大きな喜びをもたらした。プログラムを通じて、患者や家族の立場を理解し、より適切な支援をするための洞察を得ることができた。

日 程：2022/8/16(火)～8/26(金)

参加学生：1名

活動場所：島田療育センターはちおうじ

備考：島田療育センターはちおうじ <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8/>

A2. 地域包括ケア体験プログラム

本プログラムでは、高齢者支援の現場を様々な角度から体験し、訪問看護ステーション「ビュートゾルフ柏」の取り組みや、柏市役所福祉政策課長との面談を通じて地域包括ケアの現状や課題を学んだ。また、訪問看護師の同行や介護支援専門員研究協議会の認定調査コーディネーターとの面談を通じて、現場でのケアの重要性や認定調査の役割について理解を深めた。プログラムに参加し、コミュニケーションの重要性や高齢者の主体性を尊重すること、そして地域包括ケアの推進と重要性を強く感じた。今後は、これらの経験を自身の研究や生活、そして将来の政策立案に生かしていきたい。

日 程：2022/8月～2023/3月

参加学生：2名

活動場所：千葉県柏市

備考：柏市ホームページ 長寿社会に向けたまちづくり～地域包括ケアシステムの具現化に向けて～
<https://www.city.kashiwa.lg.jp/kenkoseisaku/shiseijoho/keikaku/machizukuri/toyoshikidai/caresystem.html>
東京大学 高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

A3. 東大病院入院中の難病の子どもたちの家族を支援する

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのボランティア活動

主な活動内容は清掃やセッティング、消毒等で、特に景品へのシール貼りやオンラインでの活動紹介なども経験した。活動を通じて、患者や家族にリラックスした環境を提供することの大切さを学び、また、他のボランティアとの交流から多様な視点を得ることができた。自分の強みと弱みを認識し、他者への理解も深まった。また、チャリティの文化の違いを知り、自身の活動に生かすことを決意した。今後はこの経験を基に、医療現場で患者の支援に貢献し、チャリティ活動への参加を広げていきたいと考えている。

日 程：2022/7月～2023/1月

参加学生：4名

活動場所：医学部附属病院隣接 東大ハウス（本郷キャンパス）

備考：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
<http://www.dmhcj.or.jp>

A4. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

「エコプロ」出展に参加し、東京大学のGXや省エネ意識を紹介するパネル展示を行った。また、GX推進の先生方からの紹介を含むオンラインイベントを補助し、質問も行った。この経験を通じて、身近な意識変革がグリーン・トランスフォーメーション（GX）の目標達成に繋がることを学んだ。さらに、イベント開催の一連のプロセスを担当し、人々を巻き込む面白さを垣間見た。金融業界への進路を考えている私にとって、SDGsとの関連性を理解し、よりミクロな視点から社会構築を考えることの重要性を認識した。

日 程：2022/7月-2023/3月

参加学生：1名

活動場所：本部棟9階施設部（本郷キャンパス）

備 考：TSCP（東京大学サステナブルキャンパスプロジェクト）<http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>
TSCP学生委員会（UTokyo Sustainability）<https://utsustainability.wixsite.com/utsustainability>
TSCP学生委員会（UTokyo Sustainability）Facebook <https://www.facebook.com/tscpgakusei/>

A5. 環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト

石垣島の吹通川マングローブ水域に行き、環境DNAを測定するための水サンプルの採取とろ過作業を行った。環境DNAの測定は水に含まれる微量なDNAを培養するため、手の皮脂のコンタミネーション等を最大限防ぐ必要がある。この基準は私が日ごろ行っている研究よりもかなり厳格であったため、今後のサンプルの取り扱い方法の参考になった。



水サンプル採取の様子

日 程：2022/8/5（金）-8/7（日）

参加学生：1名

活動場所：沖縄県石垣市

備 考：<https://www.earthwatch.jp/?product=環境dna>
https://www.earthwatch.jp/doc/briefings/briefing_edna_web_2021.pdf
https://www.earthwatch.jp/doc/ewj_report/ewj_2020report_web.pdf

A6. 高校魅力化プロジェクト

～課題先進地域の離島・中山間地域における学習支援と課題発見・解決、価値創造～

白糠町の公営塾「久遠塾」と白糠高校で学生支援活動を行い、白糠町の地理や文化、進路選択についての座談会を実施した。また、5名の方々にインタビューを行い、掘削技術、ホタテの増養殖、羊飼いや漁協の取り組みを知ることができた。これらの体験から、一次産業に従事する方々の生き方や町への覚悟、地方の現状、地域経済の衰退とその原因について理解を深め、地方生活の魅力と、地方と都市、一次産業とその他の産業での生活の違いを体感した。これらの経験から得た視点と気づきを、今後の生活や進路選択に生かしていきたいと思う。

日 程：2022/8月-2022/9月

参加学生：6名

活動場所：厚沢部町、白糠町、只見町、海士町、阿賀町、神石高原町、西予市三瓶町、西予市野村町、厚真町、加賀市、伊方町、久米島町、奈井江町、今帰仁村

備 考：株式会社 Prima Pinguino ホームページ（高校魅力化プロジェクト主催）<http://pripin.co.jp/>
高校魅力化プロジェクトホームページ <http://miriyokuka.com>

A7. 工学系日本語教室でのボランティア

留学生対象の日本語授業で教科書やプリントの例文の音読、学生からの質問への対応、文法や言い回しのアドバイス、日本文化についての説明等を行った。特に、日本語のオノマトペの教え方についての学習者と母語話者の感覚の違いを感じ、自身の言語に対する興味が深まった。学生の質問への対応は難しかったが、それが良い経験になったと思う。活動を通じて、私自身のコミュニケーション能力の改善、他者との交流の感覚の変化、そして異文化への理解が深まった。特に留学生の熱心な学習姿勢から勉学へのモチベーションを得た。これらの経験は今後の日本語教育や学習支援活動に生かしていきたいと思う。

日 程：2022/10月-2023/1月

参加学生：9名

活動場所：大学院工学系研究科（工学部8号館・本郷キャンパス）

備考：<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/volunteer/>

A8. 自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～

地元の高校生と協力し、砺波市の梅檀山地域を活性化させるための課題解決に取り組んだ。地元の方との交流やフィールドワークを通して議論を重ねながら、活動以外でも地域の方との何気ない雑談を通してプログラムの進行に役立つ情報を聞くこともできた。本プログラムを通して、多様な背景を持った人々と協力すること、現地の情報を自分の目と足でしっかり収集することが、ある地域の魅力を分析して活性化に繋げるうえで非常に重要であることや、グルーワークの中で協力作業の大切さも身に染みて感じる事ができた。

日 程：2022/8/8(月)-8/13(土)

参加学生：10名

活動場所：富山県砺波市

備考：富山県 <https://www.pref.toyama.jp/>
砺波市 <https://www.city.tonami.toyama.jp/>



そば打ち体験



地域活性化策発表会

A9. 増やそう地域を愛する人！地域資源情報発信事業協働体験

三浦市の市民記者ブログプロジェクトに参加し、「ニナイテカレッジ」で習得したスキルを持つ人々が持続的に市民記者として活動を行う方法について提案を行った。これは自分が将来行いたいコンサルティングと似ており、現状整理、課題特定、解決策提案の経験が非常に有意義であった。一人で取り組む難しさと簡単さを学び、チームで行うことの重要性を理解した。この経験は勉学や進路に大きな影響を与え、自己の強みと弱点を意識して様々なことに取り組むための契機となった。

日 程：2022/8/18(木)-8/19(金)、8/24(水)-8/26(金)

参加学生：1名

活動場所：神奈川県三浦市役所

備考：地域の支え合い仕組みづくり事業 <https://www.miuracc.org/sasaeai/>
ニナイテカレッジ <https://www.miuracc.org/ninaitecollage/>
三浦市ホームページ <http://www.city.miura.kanagawa.jp/kyoudo/centeropen.html>
三浦市民交流センター <https://www.miracc.org>
三浦市民交流センターX(旧twitter) @MiuraccNinaite

A10. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

プログラム最終日に行われる研修報告会で、各自が発見した玉城町の課題とそれを解決するための提案を発表するために、玉城町の見どころや実情を現場に出向いて学ぶ活動を行った。町長や副町長、教育長等から玉城町全体の概要や教育に関するレクチャーを受けたり、玉城町内の農園で農作業を行ったり、町内の保育園や児童館で子どもたちと触れ合う実習も行った。このプログラムを通じて、授業で教わってきたようなこととはまた違った実態が現場にはあるのだということを体感することができた。



研修報告会

日 程：2022/8/9(火)～8/19(金)
参加学生：3名
活動場所：三重県度会郡玉城町
備 考：<https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/>
<http://www.tamasya.or.jp/>

A11. 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～

みなかみ町に移住された方々の取り組みの数々を知ることができ、関心のあった地域おこし・町おこしがどのようなことなのかを深く理解する契機となった。林業体験と自然保護活動地区の見学を通して、自然を相手に仕事をするものの難しさと面白みを知ることができた。また、木材の加工等も手伝わせていただく中で、どの木材がどのような性質を持っているのかも肌感覚で学ぶことができ、今後の建築の勉強等に生かすことができる学びを得ることができた。

日 程：2022/8/18(木)～8/28(日)
参加学生：7名
活動場所：群馬県利根郡みなかみ町
備 考：一般社団法人みなかみ町体験旅行 <http://www.m-tr.jp>
群馬県みなかみ町藤原の移住支援ポータルサイト <http://play-fujiwara.net/>
東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A12. JICAの国内の現場で国際協力を知る

JICA東京の各課の職員の方々、そして海外事業所や開発コンサルタントの職員の方々から説明を受け、業務内容や国際協力についての知識を学んだ。マレーシアから防災について学びに来た研修生の方々との交流や海外からの研修生に日本文化を体験してもらう福利厚生プログラムを通して、国際協力をもっと身近な「人と人の繋がり」として捉えるきっかけとなった。

日 程：2022/9/1(木)～9/6(火)
参加学生：2名
活動場所：JICA東京（渋谷区西原）
備 考：JICA東京 <https://www.jica.go.jp/tokyo/>
JICAインターンシッププログラム <https://www.jica.go.jp/recruit/intern/index.html>
東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A13. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～

与謝野町に5日間滞在し、与謝野で今後行すべき観光ビジネスや旅行商品、旅行プランに関する提言を行った。最終日に町長を含め町役場の方々に発表を行うため、与謝野町に暮らす農家、公務員、起業家、利用した宿の方々にインタビューを行ったり、フィールドワークを行ったりした。普段とは異なる環境の中で、様々な視点からの意見を伺うことができ、与謝野町は多くの魅力を秘めているのだということに気づかされ、与謝野町のみならず、日本各地に存在する秘められた地方の魅力を見出すことの意義を感じた。

日 程：2022/8/16(火)～8/21(日)

参加学生：5名

活動場所：与謝野町、京都府内各所

備 考：与謝野町について <https://www.town.yosano.lg.jp/>

与謝野町役場 <https://yosano-kankou.net/>

YOSANO WEAVER ～織りなす人～ <https://yosano-weaver.jp/>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A14. 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～

オンワード樫山の社員の方々から、マーチャンダイジングやマーケティング、生産管理等、現場の声を聞く座学に加えて、後半ではグループに分かれ新規事業の企画立案、発表を行った。ファッションをビジネスにするうえで、どのような役割が必要なのかを学び、現代社会のファッション産業の展望について深い見識を得ることができた。

日 程：2022/9/5(月)～9/9(金)

参加学生：3名

活動場所：東京都内

備 考：株式会社 オンワード樫山 <https://www.onward.co.jp/>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A16. 農作物を自由自在に～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

植物工場の研究所を訪問し、植物工場にまつわる研究についてのレクチャーを受けた後、実際の植物工場での収穫の様子を見学した。植物工場の未来をテーマとしたプレゼンテーションを行い、社員の方からフィードバックをいただいた。植物工場という概念は日本ではあまり馴染みのないように感じていたが、データで見ると植物工場に携わっている企業は200社以上もあり、科学の進歩をメディアやSNSを通して人々に伝え、理解してもらう工夫が必要だと感じた。また、農業における高齢化と若者離れが深刻化しているため、新しい農業の形態を作っていく必要があると感じた。

日 程：2022/8月～2022/9月

参加学生：3名

活動場所：東京都内/千葉県内

備 考：東京大学生態調和農学機構河鱒研究室 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/kawabata-lab/>

NPO法人 植物工場研究会 <https://npoplantfactory.org/>

プランテックスホームページ <http://www.plantx.co.jp>

プランテックスの植物工場の動画 <https://www.youtube.com/watch?v=vJB07Kir8RI>

東京大学三四郎会 <http://www.facebook.com/todaisanshiro>

A17. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

主な活動内容は、土壌劣化が進んだ土地で太陽光発電パネルの下で協生農法を行うサステナジー社からの課題についてリサーチし、ビジネスモデルを構築することだった。また、宮城県の太陽光発電施設や東日本大震災の震災遺構を見学し、現地での事情を学んだ。これらの活動を通じて、土壌劣化問題の深刻さや、太陽光発電の地方での事情、東日本大震災の悲惨さや復興への希望を実感し、大きな学びとなった。また、多様な人々との交流から多くを学び、夏休みを有意義に過ごすことができた。

日程：2022/8/22(月)～9/2(金)、2023/2/20(月)～3/3(金)

参加学生：5名

活動場所：東京都渋谷区、東京都あきる野市、宮城県石巻市

備考：サステナジー株式会社 <http://sustainergy.co.jp/>

A18. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「漫オワークショップ」

ワークショップでは、短い時間内で漫才の台本を作り上げ、実際に披露した。その過程で、笑いを生む要素について深く学んだ。特に、漫才師と観客との心理的距離や、ツッコミの重要性等、笑いの質を評価する新しい視点を得た。また、「エネルギー」についてのNON STYLE石田明さんの説明は非常に参考になった。特に、初対面の相方と笑いのセンスをぶつけ合い、漫才を完成させる過程は楽しかった。この経験を通じて、人とコミュニケーションを取り、笑わせ、共に楽しむことの喜びや、度胸を学んだと感じている。

日程：2023/2/17(金)

参加学生：16名

活動場所：吉本興業東京本部（新宿）



漫才講義



講師のNON STYLE 石田さんと

A19. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「(仮) 大型お笑いフェス」

9月に大阪で開催されたLIVE STAND OSAKAでの企画制作体験を通じて、具体的な企画の立案から企画の見直し、実施までの過程を学んだ。参加者5人の学生がそれぞれ企画を提案し、吉本興業社員の方や放送作家の方の助言を得ながら、最終的にYouTubeでのミルクボーイさんとの大喜利対決とBSでの芸人さんへのお悩み相談という2つの企画を行った。この経験を通じて、企画の立案から具体化、そして実施までの一連の過程を学び、企画作りの難しさと楽しさを体験した。この経験は今後の生活や進路に大いに役立つと感じている。

日程：2022/7/21(木)～9/18(日)

参加学生：5名

活動場所：吉本興業東京本部（新宿）及び大阪



LIVE STAND 22-23 OSAKA



学生・関係スタッフと

A20. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学東大×吉本 同期ライブ「笑いの傾向と対策 令和4年度版」

芸人さんと協力してお笑いライブの企画を行った。企画の立案や検討を行うミーティングではライブ内容や企画詳細、広報方法等を提案し、芸人さんと東大生が掛け合いを行い、観客を楽しませる演出を考えた。活動を通じて、お笑いに深く関わり、笑いを届ける方法について理解を深めた。さらに、自分の意見を人前で述べるのが楽しく感じられるようになり、異なる価値観を持つ人々の意見を素直に受け入れる力も身につけることができた。今後は、この活動で得た経験を生かし、大人数の前でも自信を持って話す力を発揮したいと考えている。

日程：2022/7/19(火)-10/9(日)
参加学生：5名
活動場所：神保町よしもと漫才劇場



お笑いライブ



フォトセッション

A21. 笑う東大×学ぶ吉本 SDGs人材交換留学「相撲部屋体験入門」

二所ノ関部屋で大相撲の稽古と土俵づくりを体験し、その重厚な伝統と基礎重視の精神に感銘を受け、大相撲秋場所の千秋楽を観戦し、大相撲の世界を深く理解する機会を得た。また、阿見町の地方創生を目指し、「あみさくらまつり」での謎解きイベントを企画・運営した。この活動を通じて、相撲の深い文化に触れ、その奥深さを学び、地方創生に関与し、実際に地域の活性化に寄与する体験ができた。これらの経験は、地方への関心を高め、今後も地方創生に貢献する意欲を持つきっかけとなった。

日程：2022/8月-2023/3月
参加学生：6名
活動場所：二所ノ関部屋、茨城県稲敷郡阿見町



二所ノ関部屋稽古見学



あみさくらまつり2023

A22. おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）

来島前にZoomを使って事前に現地でのキーパーソンから複数回話を聞き、種子島でのシンポジウムに参加する高校生のメンターとして発表準備に関わった。種子島では、各種施設や農園の見学、シーカヤック体験、キャリア教育授業、シンポジウム参加等多岐にわたる活動を通じて島の魅力や課題を学び、地元の中高生と交流した。参加を通じて、島の魅力やSDGsの取り組み、廃棄物や排熱処理等の課題解決に取り組む現場を見ることができ、非常に有意義だった。

日程：2023/3/8(水)-3/12(日)
参加学生：10名
活動場所：鹿児島県西之表市（種子島）
備考：種子島観光協会ホームページ <http://tanekan.jp>
西之表市役所ホームページ <http://www.city.nishinoomote.lg.jp>
中種子町 <https://town.nakatane.kagoshima.jp/>
南種子町 <http://www.town.minamitanekagoshima.jp/>



参加学生



牧場見学

A23. 岩手県花巻市大迫ぶどう色の4日間 2022夏

古い宿場町の香りが漂う大迫の街並みを探索し、個人ワイナリーや神楽文化を体感した。また、ぶどう収穫や葡萄ヶ丘農業研究所の見学を通じて、ぶどう産業の現場を知る体験ができた。この活動を通じて、地方創生に具体的に関わる意欲が湧いた。地元の方々の温かさ、町の歴史への愛情、そしてぶどう栽培やワイン作りの困難さを学び、その貴重な体験を大切にしたいと感じた。

日程：2022/9/6(火)～9/9(金)

参加学生：2名

活動場所：岩手県花巻市大迫町

備考：花巻市ホームページ <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/>
まきまき花巻 <http://makimaki-hanamaki.com/>
花巻大迫地域情報発信サイト～Oohasamap～
<http://kanta-house.com/>
株式会社エーデルワイン <https://edelwein.co.jp/>



出荷作業



出荷作業

A24. 伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く

備前長船刀剣博物館で刀作りの過程を学び、炭を用いた研磨の体験を行った。また、笑楽窯で炭焼きや薪割りを体験し、アカマツやアブラギリの植栽地も見学した。この体験を通じて、伝統工芸品の製作過程が存続の危機にあることを知り、伝統工芸品の製造過程や文化の価値を広く伝えることの重要性を理解し、その活動を今後も積極的に続けていくことを決意した。

日程：2023/3/12(日)～3/15(水)

参加学生：6名

活動場所：岡山県

備考：伝統工芸木炭生産技術保存会 <https://www.mokutanworks.com/>
笑楽窯 <https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama>



炭出し



刀鍛冶

A25. ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える

5日間の現地活動では、宍道湖と中海の環境問題や漁業の実態について学び、具体的な漁業体験や選別作業も行った。また、赤貝養殖の作業や地域の観光事業、水族館訪問等多様な活動を経験した。このプログラムを通じて、自然環境を守ることの重要性をより深く理解した。また、私たちの生活が自然の恵みに支えられていることを再認識し、地域の問題や解決策について深く理解するためには、現地に出向き、地域の人々の声を直接聞くことが重要であると感じた。今後、これらの学びを自分の進路や生活に生かしていきたいと思う。

日程：2022/8/16～8/20

参加学生：3名

活動場所：島根県中海・宍道湖・大山圏域

備考：宍道湖漁業協同組合 <http://shinjiko.jp>
米子水鳥公園 <https://www.yonago-mizutori.com/>
宍道湖グリーンパーク <https://www.green-for.jp/gp/index.html>
島根県宍道湖・中海対策推進室 https://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/
有限会社日本シジミ研究所 <https://yamatoshijimi.com/>
認定NPO法人自然再生センター <https://www.sizen-saisei.org/>
宍道湖保全再生協議会研究概要報告書
https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/suisan/shinkou/gyosei_info/shinzhikohozensaiseikyougikai/houkokusyo.html
中海自然再生協議会 <https://www.nakaumi-saisei.org/>
宍道湖水環境改善協議会 <http://www.shinjiko-dandan.jp/>
圏域市長会 <https://www.nakaumi.jp>
松江市 <http://www.city.matsue.shimane.jp>
米子市 <https://www.city.yonago.lg.jp>
出雲市 <https://www.city.izumo.shimane.jp>
安来市 <https://www.city.yasugi.shimane.jp>
境港市 <https://www.city.sakaiminato.lg.jp>

A26. 森の人になろうー森と暮らす仕事

山梨県山中湖の富士癒しの森研究所で開催されたプログラムに参加し、夏と冬の2回、実際に森林保全活動を体験した。夏は林内の紹介を受け、枯れた木の伐採や芝刈り、薪運びを行った。冬は薪割りと落ち葉の燃やし方を学んだ。活動を通じて、森林の維持管理に必要な作業の大変さと、それが森林の美しい状態を保つためには必要なことであると学んだ。また、自然と深く向き合う時間は、自然が身近なものとして感じられるようになり、自己理解が進んだ。これらの経験は、自分の勉強や生活、進路に対する考え方に影響を与え、今後も自然に親しむことを続けたいと思った。

日 程：夏 2022/8/29(月)-8/30(火) 冬 2022/12/17(土)-12/18(日)
参加学生：4名
活動場所：附属演習林富士癒しの森研究所（山梨県南都留郡山中湖村）



枝打ち（夏）



焚火（冬）

A27. 森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー

北海道富良野市の北海道演習林で、森林の実際の状況を直接体験し、木の健康状態を判断する方法や、UAV空撮の限界と可能性を学んだ。また、林業の厳しい現状についても理解を深めた。全体を通して、少ない人数で広大な森を管理する現場の方々の率直な話を聞くことができ、それが大きな財産になった。私自身にとって、このプログラムは自分が何か貢献できることがあるかもしれないという可能性を感じさせてくれた。また、チームワークの重要性や林業の厳しい現状について学んだことは、自分自身の見方や考え方に大きな影響を与えた。この経験を通じて、森林管理やGISに関わる仕事に魅力を感じ、今後何らかの形で関わりたいと思うようになった。

日 程：2022/8月-2023/3月
参加学生：4名
活動場所：附属演習林北海道演習林（北海道富良野市）
備考：北海道演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>

A28. 伊豆の体験活動ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー

2回の活動日程で南伊豆の問題解決に取り組む経験を得た。1回目は、地元の方から獣害について学びながら、猪を解体しソーセージを作った。学生が役割を交代しながら、各工程を全員で担当し、地元の方からの指導と実践の経験を得た。2回目は、林業体験として椎茸の原木栽培と収穫、薪割り体験、鰹節製造工場と林業現場の見学を行った。このプログラムを通じて、自然に囲まれた生活や地方の問題について深く理解することができた。また、地方の問題に意識を向け、広い視野で思考する重要性を学んだ。

日 程：2023/2/18(土)-2/20(月)、3/18(土)-3/20(月)
参加学生：6名
活動場所：静岡県賀茂郡南伊豆町

A29. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

常呂実習施設を見学し、考古写真資料の整理、勾玉作り、「ところ遺跡の森」資料の模擬展示説明等を行い、擦文文化やオホーツク文化について、北海道が「北方民族の中の日本」という位置付けであることの理解を深めた。それぞれの博物館で展示方法や学芸員の展示説明の共通点と違い、その効果について比較をし、どのように研究活動が地域と結びついているかを感じることができた。氷点下の寒さや氷と雪に覆われたサロマ湖、流水見学等真冬の北海道を体験した。

日程：2023/2/13(月) - 2/16(木)

参加学生：5名

活動場所：常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森（北海道北見市常呂町栄浦）

備考：常呂実習施設 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

北見市「ところ遺跡の森」

<http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



流水



網走刑務所

A30. 渋谷のまちづくりと子ども・子育て支援の取り組みを知ろう

2日間にわたり、ネウボラとまちのこども園の見学と学習を行った。渋谷区の行政施設と民間企業の施設の見学を通じて、行政と民間が一体となった取り組みや、子育て支援の現場の課題を具体的に理解することができた。さらに、まちのこども園では、子どもの自主性と創造性を伸ばすための工夫や地域コミュニティとの関わりについて学んだ。このプログラムに参加して、行政や民間の取り組みを直接見て学ぶことができたことは非常に有益であった。これからも、このような活動を通じて得た知識や経験を生かし、自分の進路や将来について考えていきたい。

日程：2022/9/26(月) - 9/30(金)

参加学生：6名

活動場所：本郷キャンパス 渋谷区子育てネウボラ 渋谷区内の保育園

備考：渋谷プロジェクトについて

<https://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/research/shibuya-project/>

発達保育実践政策学センター

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>

A31. 「東大の森」の教育研究を支えよう！ ～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～

郷台作業所と札郷作業所を訪問し、かつての研究の跡や現行の研究を見学した。また、マツの苗木畑での雑草取り、清澄寺にある天然記念物である大スギの観察、森林博物資料館での学習も行った。さらに、チェーンソーを用いて木を切り、ツリークライミングの実習を行った。この体験を通じて、自然と人間の密接な関係を再認識させ、林業の厳しい状況やそれが生活を支えている事実を学んだ。これらの経験は、今後の研究や生活における視点や考え方に影響を与え、林業に敬意を持って接する姿勢を養った。



森林作業

日程：2023/8/23(火) - 8/26(金)

参加学生：1名

活動場所：附属演習林千葉演習林（千葉県鴨川市天津）

備考：千葉演習林のホームページ

<http://www.uf.a.utokyo.ac.jp/chiba/>

Facebook

<https://www.facebook.com/東京大学-千葉演習林-509050409292447/>

A32. 中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム 企画開発プロジェクト

益田市街を自転車で周遊し、中世のまちづくりを生かした観光スポットや日本遺産に認定された寺社、遺跡を見学した。また、益田市の特徴的な教育「カタリバ」について学び、地元中学生と交流した。活動期間中、地方都市の行政について学びを深め、市役所の職員や地元の高齢者から話を聞く機会があり、新たな視点や考え方を得ることができた。このプログラムを通じて、地方行政の現場で働く人たちの熱意や挑戦を知り、自分の視野を広げることができた。

日 程：2022/9/13(火) - 9/16(金)

参加学生：6名

活動場所：島根県益田市

備 考：益田市ホームページ「観光情報」

https://www.city.masuda.lg.jp/kanko_bunka_sports/kankojoho/index.html

益田市ホームページ「歴史・文化財」

https://www.city.masuda.lg.jp/kanko_bunka_sports/rekishi_bunkazai/index.html

一般社団法人益田市観光協会ホームページ

<https://masudashi.com/>



市内フィールドワーク



益田市長と

A33. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～

赤津研究林の散策、量水堰の砂出し作業、気象水文観測体験、樹木幹周囲長測定、堆積・排出土砂量の算出、水文学の講義とディスカッション等を行った。このプログラムを通じて、森林の再生やモニタリング活動の重要性、量水堰の役割とその問題、そして気象観測の方法を学んだ。この経験は私の知識を深め、気象データの提供者に問い合わせることや研究者としての進路を考えるきっかけとなった。

日 程：2022/9/27(火) - 9/30(金)

参加学生：5名

活動場所：大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所赤津研究林（愛知県瀬戸市北白坂町）

備 考：附属演習林 生態水文学研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>



砂出し



毎木調査

A34. 日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える

花火を経営活動の観点から理解する経験は、新鮮で刺激的であった。花火会社の方からの話や工場見学等を通じて、花火に対する知識が深まり、花火大会の運営側から見た経験も得られた。プログラムに参加して、花火の制作や打ち上げ現場を見ることができ、花火の芸術性と財政的な面を同時に考えることができた。さらに、多様な学年、学部参加者との交流は刺激的であり学ぶことも多かった。これらの経験は、今後の積極的な挑戦や多様なバックグラウンドを持つ人々との交流に生かしていきたいと考えている。

日 程：2022/9月 - 2022/12月

参加学生：11名

活動場所：東京、秋田

備 考：一般社団法人 日本花火推進協力会 <https://hanabi2020.jp/>

同会の過去に実施した事業

<https://hanabi2020.jp/project/2019/report/>



打ち上げ場所



花火製造現場見学

A35. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

鷹栖町の「隠れた宝」や「問題点」を探究するために、町の人々との対話や実地調査を行った。観光施設や町営施設、農家、水産青果市場を訪れ、働く人々との交流を通じて、深い理解と経験を得ることができた。エゾシカを探索経験や農作業等、珍しい体験もさせてもらった。活動を通じて、鷹栖町の人々の積極性と自発性、コミュニティの大切さを実感した。また、データだけでなく、地域の深層を探ることの重要性や多様な視点の尊重が問題解決に必要なだと学んだ。この経験は、私の人生設計や価値観に対して新たな視点を提供し、これからの研究や生活に大いに役立つと考えている。

日程：2022/8/19(金)～8/25(木)
参加学生：3名
活動場所：北海道上川郡鷹栖町



カヌー体験



農業体験

A36. 「クリケット」を通じて世界を知ろう！ ～クリケットを通じた国際交流～

埼玉県大宮市のグラウンドで、クリケットの体験を3回行った。体験者同士での試合にも参加し、クリケットの面白さを実感し、異なる学部や学年の東大生との交流を深めることができた。また、初対面の相手とも仲良くなることができ、自分から交流を持つことで友好の輪を広げる自信がついた。年齢の高い人々が新しいことに取り組む姿に感銘を受け、異文化のスポーツを通じて、自分の国の文化を愛せるようになりたいと思った。

日程：2022/9月～2022/12月
参加学生：4名
活動場所：大宮市グラウンド、都内
備考：<https://www.youtube.com/watch?v=iip05CXTBLI>
<https://sano-cricket.net/catalog/>



防具を付けて



試合風景

A37. 不登校傾向の子どもたちとの活動から探る新しい学びの形

海のプログラムに参加し、様々な活動に取り組んだ。子どもたちと共に海ぶどう井の調理を行い、海ぶどうの生態について学んだ。また、海や海ゴミについての講演を聞き、子どもたちと共に海岸のゴミを拾った。子どもたちが海で拾ったもので作ったりサイクル作品のマーケットを開催し、彼らが作品の由来を語りながら「まちのコイン」で売買する様子を見た。このプログラムを通じて、学び方の多様性を現場から学び、現行の教育形態とは違った「感じ、体験し、制作する」という新しい学び方の重要性を再認識した。今後は教育業界へ進むことも視野に入れており、このプログラムで得た経験を生かしていきたいと考えている。

日程：2022/9/17(土)～9/25(日)、2022/11/7(月)～11/21(月)
参加学生：7名
活動場所：鎌倉
備考：かまくらULTLAプログラム <https://kamakura-ultla.com/>
ロートこどもみらい財団 <https://future-for-children.rohto.co.jp/>
ビオスの丘 <https://www.bios-hill.co.jp/>
未来ビジョン研究センター <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/>

A38. 陶板名画美術館におけるスタッフ体験

大塚国際美術館の広報活動の一環として、Z世代をターゲットとしたPR動画作成と「秋のおすすめ名画」紹介動画の作成に取り組んだ。活動を通じて、美術館のあり方や業界の未来について深く考え、Z世代の多様性や価値観を理解することの難しさを実感した。一方で、SNSを活用した情報収集や「映える」写真の撮影等、新たな視点から広報活動を考えることができた。この体験に参加したことで、自分の芸術に対する理解が表層的であることに気づき、他者との協働の重要性を再認識した。また、社会や異文化に対する見方も広がり、美術館の価値発信の重要性を認識した。これらの経験は今後の生活や進路に生かしていきたい。

日 程：2022/8/22(木)～8/24(水)
参加学生：5名
活動場所：徳島県鳴門市
備考：大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>



館内の見学



動画編集作業

A39. 聖地熊野の歴史文化と自然体験し、地域振興を考える

熊野の三大神社を訪問し、信仰の歴史や建築について学び、熊野古道を歩いて修験者の修行を体験した。新宮市市長と意見交換を行う等、様々な視点から熊野の自然・歴史・文化を理解を深めた。また、多様なバックグラウンドの参加者との交流や、神社や遺跡の詳細な解説を通じて、一層の理解を深めることができた。参加者の中には熊野の歴史や植物に精通している方や山伏の研究者等がおり、普段接することのない視点から学ぶことができた。新宮市市長との直接の意見交換は、地方創生や地域文化について深く考える機会となった。プログラムを通じて精神的な強さを得、これを今後の生活や学びに生かすことを決意した。

日 程：2022/8/7(日)～8/10(水)
参加学生：10名
活動場所：新宮市、那智勝浦町、紀伊田辺市



熊野古道

A40. 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう

3日間のプログラムで乗馬、牛舎での搾乳と餌やり、掃除、山羊の体重測定、豚についての学習、チーズ・バター作り体験、そして瑞穂牧場の見学を行った。家畜の飼育に必要な資源の莫大さを目の当たりにし、肉の流通過程や飼料の高騰問題について理解を深めた。このプログラムを通じて、人間と動物との関係や畜産業の実情について把握することができた。また、家畜に対する感情や畜産業に対する見方が変わり、これを今後の生活や進路に生かしていきたいと思う。

日 程：2022/9/5(月)～9/7(水)
参加学生：3名
活動場所：茨城県笠間市 東京大学附属牧場
備考：附属牧場 <http://www.bokujo.a.u-tokyo.ac.jp/>

A41. どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）

毎日朝から夕方までジャガイモと大根の収穫を行い、その疲労感と充実感は、大都市での生活では得られない体験であった。同時に、普段何気なく食べている野菜の生産には大きな労力が必要であることを理解した。また、地元の小学校訪問を通じて地域との交流も楽しんだ。この体験を通じて、農作業の大変さとその重要性を身を持って理解した。普段何気なく食べる野菜が、大変な労働を経て収穫されていることを実感し、農業に対する価値観が変わった。一日中自然と触れる生活は、自分自身が生き生きとしていることを実感させ、今後も農業・漁業に関わり続けたいと思った。

日 程：2022/8/29(月)～9/3(土)

参加学生：5名

活動場所：青森県西津軽郡深浦町

備 考：深浦町ホームページ <https://www.town.fukaura.lg.jp/>
深浦ってどこ？（深浦町観光公式サイト） <http://fukadoko.jp/>
鮎作興農組合ホームページ <http://www.henashi.jp/>

A42. 暮らしの中で環境に配慮した物質の循環を考える ～京都府亀岡市～

亀岡市の環境先進都市としての取り組みを市長と市の担当者から学び、地元企業の環境配慮への取り組みを見学した。また、保津川下りを通じてゴミ問題について深く考え、自分ができていることをしていこうという気持ちが強まった。プログラムに参加し、企業が環境に配慮した活動を行う際の苦労、プラスチックゴミ問題と取り組む人々の思い、楽しみながら環境に良いことを進める工夫等、多くのことを学んだ。

日 程：2022/9/22(木)～9/24(土)

参加学生：7名

活動場所：京都府亀岡市

備 考：亀岡市役所ホームページ <https://www.city.kameoka.kyoto.jp>
亀岡市観光協会ホームページ <https://www.kameoka.info/charm/>



アップサイクル工場見学



天然砥石による研ぎ体験

A43. 地域住民の健康を守るために医療機関が行う 地域活動体験プログラム

脳神経センター大田記念病院と地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家を訪問した。院長とのディスカッションでは、地域医療の実情や医療経済等多岐にわたる話を聞くことができ、公民館での高齢者集会に参加し、地域の高齢者の健康や困りごと相談に乗る活動を見学した。興味深かったのは、医療職が自ら地域住民の相談に乗りに行く姿勢と、それが地域全体のヘルスリテラシーや関係性の向上に繋がると感じたことだ。また、現在の地方都市における医療経済の実態や、施設職員の具体的な行動力に感動した。この体験を通じて、自分自身が地域全体の健康向上に努めることを考えるようになり、社会が様々な人々で成り立っていることを強く感じた。今後は、自分の専門を生かして、より広範囲の地域に心を配ることのできる職業を模索したいと考えている。

日 程：2022/11/5(土)～11/6(日)

参加学生：5名

活動場所：広島県福山市

備 考：脳神経センター大田記念病院 <https://www.shouwa.or.jp>
地域密着型特別養護老人ホーム 五本松の家 <https://5pines.jp/>



よってきんさいカフェ

A44. まちを変える、まちが変わる～（株）豊島区 体験入門～

区制90周年を記念した企業との共同プロジェクトや盆踊りイベントに参加し、豊島区のまちづくりの現場を見た。最終的に、豊島区への提言をまとめ、区長へ報告した。このプログラムを通じて、多様な文化と共に生活する街の魅力を実感することができ、豊島区の文化政策やまちづくりに対する理解を深めることができた。今回の体験は、研究や学びに生かすだけでなく、社会人としての視点やコミュニケーション能力を高めるための貴重な経験となった。

日 程：2022/8/9(火)、8/20(土)、8/21(日)

参加学生：4名

活動場所：豊島区内

備 考：豊島区ホームページ <https://www.city.toshima.lg.jp/>
豊島区SDGs特設ホームページ「としまSDGsアクション！」
<https://www.toshima-sdgs.jp/>



まちめぐり



企業主催イベントの視察

A45. 野宿学（雪国編）

「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」

3日間のプログラムでイグルー作りとかんじき体験を行った。1日目には小さいイグルー作りの練習をし、2日目にはかんじきを履いて近所の山を散策した後、本格的なイグルーを製作した。3日目はイグルーの見学や記念写真撮影、3Dスキャンを行った。雪の掘削やブロックの切り出しには頭と体をフルに使ったが、完成に近づく喜びは疲労を忘れさせた。また、氷点下での野宿も楽しく、一面の銀世界を見た時の嬉しさや達成感は忘れられない。プログラムを通じて、異なる専攻分野の学生との交流も有意義だった。

日 程：2023/2/11(土)-2/13(月)

参加学生：7名

活動場所：長野県飯山市

備 考：<https://www.youtube.com/watch?v=hVRUQoFIHcA>



作成風景



夜

A46. 帰還困難区域の「街づくり」を考える。

福島県双葉郡浪江町、大熊町、双葉町における今後のまちづくりを提案するための活動を行った。これらの町は2011年の福島第一原子力発電所の事故後、避難指示が解除された最も遅い地域である。私たちは町の現状や課題を特定し、目指す町の姿を描き、その達成に向けたアクションプランを提案した。現地調査を行い、町づくりのキープレイヤーとインタビューを行い、様々な施設を訪れた。その後、提案するコンセプトと具体的な施策を落とし込む議論を行い、現地報告会で提案を発表した。プログラムを通じて、数多くの関係者が一つの町の施策に関与していること、地域の伝統を守る難しさと重要さを痛感した。これらの経験は、私の今後の生活や仕事に大きく影響を与え、相手の思いにも応えることができるような仕事をしたいという思いを強くした。

日 程：2022/8/29(月)-8/31(水)、9/15(木)-9/16(金)

参加学生：9名

活動場所：福島県



参加メンバーと



現地調査

【海外プログラム】

B1. 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流

新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた中国渡航が中止となり、代わりにオンラインで中国の企業、大使館、大学とのセッションを実施した。中国の現状を学び、中国企業の熱意や、海外経験を積んだ社会人のキャリア話に刺激を受けた。また、中国の大学生との交流を通じて文化や価値観の違いを体感し、中国に留学する意欲も湧いた。プログラムへの参加を通じて中国の多様性を直接体感し、中国や他国を一概に判断せず、多角的な視点を持つことの重要性を学んだ。

日 程：2023/3/6(月)－3/16(水)
参加学生：10名
活動場所：中華人民共和国 北京市と上海市



復旦大学の学生達とのディスカッション

B2. 大学・企業・文化体験 in 韓国2022年 —韓国を知る、韓国から日本を見る—

討論会企画、運営と交流を通じた生活文化の学習、企業訪問、ホームステイを経験した。討論会では、日本と韓国の教育とキャリア、日韓関係の改善、環境問題について議論した。ソウル大生と共に食事をし、日本では見られない韓国の食生活文化を学んだ。また、先端技術系の企業やベンチャーが集まる板橋地区を訪問し、都市レベルの実験や開発が行われていることに驚いた。韓国人の家庭でホームステイを経験し、ソウルの街並みを直接体験した。このプログラムを通じて、日本と韓国の学生が似た視点を持つこと、教育の問題に対する意識の共有、そしてソウルの街づくりについての深い理解を得た。

日 程：2022/8/23(火)－8/31(水)
参加学生：10名
活動場所：ソウル近郊、ソウル大学



ホームステイ



韓屋

B3. シンガポールでビジネスを学んでみよう

東大OB・OGが活躍する企業を訪れ、彼らの活動内容やシンガポールで働く理由を学んだ。一日に4-5社を訪問し、最終的に20社を見学した。訪問先はIT系から法律事務所まで多岐にわたった。各企業で説明を受けた後、学生側から質問する時間があった。最終日には、学んだことを発表し、OB・OGとの懇親会もあった。このプログラムを通じて、シンガポールの多様性と共生、企業の人々の人柄やコミュニケーション力の重要性を学んだ。また、OB・OGの熱意に触れ、多様な視点を持つ他の学生との交流も新たな学びをもたらした。

日 程：2023/2/25(土)－3/5(日)
参加学生：8名
活動場所：シンガポール
備 考：<https://sgp-tanseikai.com/>

B4. TOPS2022 (Tokyo Oxford Programme of Summer 2022)

初めの2週間、オックスフォード大学の寮に滞在し、その地での法律や西洋古典の講義を受け、議論に参加した。その後、イギリスの大学で行われるチュートリアルを体験し、法律や哲学について学び、王立裁判所や法曹学院の見学も行った。次に、ケンブリッジ大学とエディンバラ大学の寮に滞在し、研究会への参加やスコットランド議会の見学を行い、プログラムの最終日にはプレゼン大会を開催した。滞在中は自炊を中心に行い、自由行動の日にはロンドンを訪れた。このプログラムに参加して、英語レベルが向上し、海外への不安感が和らいだ。また、参加者との交流やイギリス社会の具体的な体験を通じて、視野が広がった。これらの経験は今後の学習や生活、進路に大きな影響を与え、英語の勉強や知識を広めるための努力を続けたいと思う。

日程：2022/8/6(土) - 9/4(日)

参加学生：11名

活動場所：英国オックスフォード大学・その他

備考：オックスフォード大学 ジーザス・コレッジ <https://www.jesus.ox.ac.uk/>
Mayer Brown <https://www.mayerbrown.com/>
PwC <https://www.pwc.co.uk/>



オックスフォード大学のクライスト・チャーチカレッジ内、「ザ・グレート・ホール」



講義の受講

B5. 英国ロンドン、海外で働くとは

5日間のプログラムで、JR東海、日本大使館、JETRO、オックスフォード大学、ソフトバンク、三菱商事、ブランズウィック、三井物産、JAL、EBRD、MUFG、日本銀行を訪問し、各企業の説明会やセッションに参加した。企業理念や業務説明、東大卒業生のキャリアパスについて学ぶといった貴重な体験だった。多くの企業の方と話す機会を得て、海外で働く具体的なイメージが湧いた。また、駐在員や海外で働く東大卒業生との交流は、自分の将来の進学選択やキャリア選択に大きく影響を与え、特に海外で働く機会のある職に就きたいという想いが強まった。

日程：2023/2/20(月) - 2/24(金)

参加学生：10名

活動場所：英国ロンドンおよび近郊

備考：英国赤門校友会
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html>



オックスフォード大学



ロンドンにて

B6. VE_italia・Veneto Experience

初めの5日間は、ベネチアでフィールドワークとグループワークを行い、空間の視覚化やデザインについて学んだ。次の4日間は、スカルパが設計したTomba Brion周辺で過ごした。帰宿後は、最終発表の準備と発表を行った。初めての分野への取り組みで難しさを感じつつも、積極的なコミュニケーションを通じて多くを吸収した。また、多様なバックグラウンドを持つ参加者との交流から社会の多様性や異なる価値観に触れ、持続可能な社会や異文化への理解を深めた。海外の様子やイタリアの人々の生活文化に触れ、新しい視点を得た。これらの経験は自分の学問や社会生活に対する視野を広げ、今後の生活や進路選択に影響を与えるだろう。

日程：2022/9/1(木) - 9/15(木)

参加学生：12名

活動場所：Venezia, Veneto, Italy

備考：Veneto Experience公式サイト
<http://www.venetoexperience.com/>

B7. スウェーデン王立工科大学（KTH）での体験活動 日本語授業サポートと学内企業訪問

KTHでは日本語教室の支援、講義への参加、スタートアップ企業や研究室の見学を行い、様々な体験を通じて海外の教育や研究環境について学んだ。また、ストックホルム市内では地元の学生ボランティアの案内でノーベル賞博物館等を訪れ、スウェーデンの歴史や文化を学んだ。このプログラムを通じて、スウェーデンの文化や環境を五感で感じることができ、新鮮な驚きを味わった。また、日本人グループやKTHの学生との親睦を深めることができ、新たな友人を得ることができた。大学院での留学に関心が湧き、スウェーデンの学生支援システムについて学んだことから、海外大学院の博士課程進学や博士研究員も検討するようになった。

日 程：2022/9/5(月)～9/12(月)

参加学生：7名

活動場所：スウェーデン・ストックホルム（スウェーデン王立工科大学）

備 考：工学系研究科日本語教育部門 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

スウェーデン王立工科大学 <http://www.kth.se/>

在日本スウェーデン大使館 <http://www.swedenabroad.com/ja-JP/Embassies/Tokyo/>

ノーベル博物館 <http://www.nobelmuseum.se/>

JETRO(スウェーデン) <https://www.jetro.go.jp/world/europe/se/>

B8. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

プリンセス・ヌーラ大学の短期集中プログラムに参加し、アラビア語のレッスンを受たり、学生と交流したり、リヤド市内を観光した。アラビア語のレッスンでは基本的な挨拶から食事に関する表現まで学び、VRを使った学習も体験した。リヤド市内の観光では、図書館、世界遺産、スマートシティー計画の展示、Financial district、テーマパーク等を訪れた。サウジアラビアの人々はとても暖かく、女性の社会的立場が強化されていることを目の当たりにした。また、The Lineというスマートシティーの建設中の計画について知り、その規模とコンセプトに驚いた。これらの経験を通して、サウジアラビアの新しい一面と伝統的な部分が共存していることを実感した。

日 程：2023/3/10(土)～3/17(金)

参加学生：7名

活動場所：サウジアラビア リヤド

備 考：プリンセス・ヌーラ大学

<http://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

太陽光寄付講座（GS+I） <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>



参加学生

B9. アラブ首長国連邦の「いま」

アブダビとドバイでの活動を通じて、日本企業の立ち位置や現地での生活状況を理解し、現地の学生との交流会で、自己紹介のプレゼンを行った。また、観光地巡りやデザートサファリ体験で、現地の文化と自然に触れた。特に、カリファ大学とUAE大学の学生との交流は貴重な経験で、彼らからイスラム文化のリアルな側面を学び、その隔たりを感じなくなった。このプログラムを通じて、UAEの人々の柔軟な考え方に影響され、国際交流の視点を深め、将来的にドバイやアブダビで働くことを現実的に想像できるようになった。この体験は、自分自身の勉学や生活、進路に大きな影響を与え、ドバイでスタートアップに取り組む人々に触れ、自分も同じ熱量で取り組みたいと強く感じた。

日 程：2022/9/9(金)～9/18(日)

参加学生：6名

活動場所：アラブ首長国連邦・アブダビ首長国（マスダール市、アブダビ市、アルアイン市）、ドバイ首長国

備 考：東京大学GS+I総括寄付講座 <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>

Khalifa University <http://www.ku.ac.ae/>

IRENA <http://www.irena.org/>



UAE大学訪問



超高層ビルから

B10. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション

ボストンにある研究所を訪問し、現地の研究環境や日米の研究環境の違いについてディスカッションを行った。活動は、進路や研究内容についての質問をすることが中心だった。この経験により、海外での研究を具体的にイメージすることができ、自分たちの研究に役立てるための情報を得ることができた。また、研究を行う場所に関係なく大切な部分、例えば研究のテーマ選択における他者との差別化についても深く議論することができた。プログラムへの参加は、進路選択の選択肢を広げ、自分自身の未来に大きな影響を与えた。特に、海外で研究を行うことを考え始めるきっかけとなった。これからは、積極的に英語の勉強をするとともに、視野を広げて学び、海外での研究に挑戦したい。

日 程：2022/8/11(木) - 8/23(火)
参加学生：8名
活動場所：アメリカ合衆国、ボストン
備考：受入担当 Hisashi Umemori 先生
Website <https://umemorilab.wordpress.com>



訪問先へ移動中

B11. GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT

MIT-SDMの1月のIAP週間に参加し、MITの大学院学生たちとプログラムに参加した。訪問者であり指導チームの一員として、3つの責任を担った。まず、様々な授業やワークショップに参加し、デザイン思考を学び、他の大学院学生の様々なプロジェクトを探求した。次に、TAsが実施する授業やワークショップでは、裏方で学生や教師を支援した。最後に、IAP週間中のチームワークに関する研究を行うMITの集合知センターの研究者を支援した。これらの活動を通じて、授業と研究がどのように進行するかについて貴重な理解を得た。

日 程：2023/1/9(月) - 1/13(金)
参加学生：1名
活動場所：Kashiwa/Cambridge, MA, USA
備考：Systems methods(システム思考の説明)
<https://is.edu.k.u-tokyo.ac.jp/top/systems-thinking>
GLOBAL TEAMWORK LAB
<http://gtl.mit.edu/> and <http://gtl.k.u-tokyo.ac.jp/>



MITにて



講義

B12. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

シカゴとワシントンDCにて、各種企業、機関、研究所等を訪問した。訪問先では、自分たちが事前に送った質問集に基づいて、キャリア形成や現在の仕事について詳しく教えていただいた。また、スタンドアップコメディや立食パーティー等の文化交流も行った。アカデミアと業界両方の視点から多様なキャリアを見ることができ、非常に有益だった。これにより、自分の進路についての視野が広がったと感じている。特に、Ph.D.留学という選択肢に興味を湧いた。プログラムを通じて、「海外で働きたい」という感情が具体的になったと感じている。

日 程：2022/8/24(水) - 8/30(火)
参加学生：10名
活動場所：米国シカゴ市・ワシントンDC周辺
備考：シカゴ赤門会・さつき会アメリカ
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>
Ravinia 野外コンサートホール
<http://www.ravinia.org/calendar>

B13. 米国ニューヨーク・ソルトレイクシティ近郊における国際交流・研究体験活動

NYではNYUやコロンビア大学の大学院見学、東京大学ニューヨークオフィスでの交流会等を経験した。ユタではグレートベースン博物館、トパーズ日系人収容所の跡地、アーチーズ国立公園の訪問、ユタ大学の特別講義に参加した。このプログラムを通じて素晴らしい人々との繋がりを築けたことが最大の収穫だった。海外で働く先輩方や、研究者、同じプログラムに参加した学生仲間との交流を通じて、新たな視点や海外での働き方を学んだ。また、アメリカの大学や社会の違いを直接見ることで、日本の一元的な環境との違いを感じた。この経験は私の進学選択に大きな影響を与え、海外で働く人々との交流は自分の視野を広げ、今後も積極的にこのプログラムで出会った人々と交流し、一緒に学習することを目指す。

日程：2022/8/14(日)-8/23(火)

参加学生：8名

活動場所：米国ニューヨーク及びソルトレイクシティ近郊

備考：東京大学ニューヨークオフィス

<https://utokyony.adm.u-tokyo.ac.jp/japanese.html>

ブルックヘブン国立研究所 <https://www.bnl.gov/world/>

ユタ大学のWEBサイト <https://www.utah.edu/>

テレスコープアレイ実験のWEBサイト (日本)

<http://www-taicrr.u-tokyo.ac.jp/>

ユタ大学 <http://www.telescopearray.org/>

デルタ市の博物館 Great Basin Museum <http://greatbasinmuseum.com/>

Topaz Museum <https://topazmuseum.org/>



ニューヨークオフィスにてOB・OGとの懇親会

B14. グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【オンライン】

ニューヨークで働く東京大学の卒業生からのオンライン講演会に参加した。様々な分野で活躍するスピーカーから仕事の内容を学んだ。質疑応答の時間も設けられ、スピーカーと深く議論できた。英語の発音のワークショップやレジュメの書き方のレクチャーもあった。このプログラムを通じて、働く上での重要な視点や心構えを学び、参加者やスピーカーから新たな視点を得られた。特に、ビザの取得や海外のPh.D.への進学、アメリカの格差社会等について深く理解することができた。また、発音のワークショップは英語力向上に役立った。このプログラムは、海外での就職に対する視野を広げ、自分のキャリアプランを練るきっかけとなった。また、自分の視座を高く持つことや積極的に質問をすることの大切さを学び、今後の学業や生活に生かしていきたいと思う。

日程：2022/9/7(水)-9/13(火)

参加学生：12名

活動場所：ニューヨーク (オンラインで実施)



セッション

B15. グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方【渡航】

Nomura America、JETRO、Citiなどの企業を訪問し、アパレル、会計、投資などの分野で働く人々と交流した。また、国連ツアーやニューヨーク証券取引所の見学、英語の発音ワークショップ、卒業生との懇親会にも参加した。参加学生が訪問先情報の下調べや移動手段の確認を行った。プログラムを通じて、様々な職場で働く人の話を聞き、毎日新たな出会いに喜びを感じた。特に、「人に愛される人になる」、「自分の市場価値は掛け算思考で考える」、「上手いかなかったときの方が学ぶことが多い」などの言葉が印象的だった。この経験を通じて、今後の語学力向上やユニークなキャリア形成への意欲が高まった。

日程：2022/8/29(月)-9/2(金)

参加学生：7名

活動場所：米国ニューヨーク及びその周辺



訪問先にて



ニューヨーク証券取引所

B16. 日本からカナダへ～留学と就職を通してカナダのマルチカルチュアリズムを体験する～

3日間のオンラインプログラムでは、日系カナダ人の歴史、現地で働く人々の経験、そして現地の学生生活について学んだ。この経験から、カナダの安全性と生活の良さについて深く理解することができた。また、英語で自分の考えを伝える上での課題も見つけた。カナダの多様性と安全性、さらには魅力的な生活環境について学び、カナダの人種・文化的多様性について、新たな視点を得ることができた。これらの体験は、私の進学、生活、キャリア選択に大きな影響を与え、今後の学業や進路選択に生かしたい。

日 程：2022/8/19(金)-8/21(日)

参加学生：7名

活動場所：オンライン

備考：Utokyo Alumni Association of Canada Chapters (Both West and East Chapters)

<https://www.utokyocanada.ca>

B17. Sustainable agriculture experience at Organic Farm (USA)

毎週月曜日から金曜日の午前中は、農家の手伝いをしていた。朝6時に起きて鶏小屋を開け、正午まで雑草抜きや収穫などの農作業を行った。火曜日はマーケットの日で、午後5時まで店頭で名簿チェックや野菜の補充した。このプログラムに参加して学んだことは多く、アメリカの民族の多様性やアメリカ人の政治に対する関心の高さに興味を持った。今後は、日本についての理解を深め、国際人としての視野を広げるために、異なる文化や国際交流の経験を生かしていきたいと考えている。自身の進路にも影響を与えるこの体験を、日本の社会や異文化理解についての深い洞察を得るための一歩と捉えている。

日 程：2022/8/6(土)-9/17(土)

参加学生：9名

活動場所：Orchard Farm Organics (1052 Cherry Hill Road, Princeton, NJ 08540 USA)

備考：Orchard Farm Organics : <http://orchardfarmorganics.org/>

B18. ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験 (米国)

平日に農作業を行い、収穫、苗の植え替え、雑草抜きなどを経験した。このプログラムを通じて、アメリカの農作業とその運営方法を理解し、有機農業の重要性を感じた。また、無農薬のための雑草抜きの困難さや病害虫問題、在来種の保護の努力についても学んだ。アメリカの社会環境は日本より複雑で、治安や人種問題が深刻化していることを認識した。この経験を通じて環境問題への関心が高まり、環境問題に取り組む団体に参加することを計画している。

日 程：2022/8/20(土)-9/3(土)

参加学生：3名

活動場所：The Hickories (136 Lounsbury Road, Ridgefield, CT 06877)

備考：The Hickories <http://www.Thehickories.org/TheHickories>

紹介ビデオ (University of Connecticut 作成)

<https://www.youtube.com/watch?v=8nOJ8bXkZtq>



農場の皆さんと



農場にて

B19. シリコンバレーハイテク企業社員の生の声を聞く国際交流体験

シリコンバレーの各企業を訪問し、現地のエンジニアや研究者と交流した。GoogleやApple本社を訪れ、社員との対話を通じて彼らのキャリアパスを学んだ。デンソーシリコンバレーラボやHonda Innovation Labでは、自動運転技術やベンチャーキャピタルについて理解を深めた。UC Berkeleyの富塚研究室では、海外で学ぶ日本人学生の経験を聞いた。これらの訪問を通じてシリコンバレーのエコシステムや現地のエンジニアの生活を知ることができた。このプログラムを通じて得た三つの良い点は、シリコンバレーについての理解、現地で活躍する日本人との交流、そして新たな友人の獲得である。彼らの大志や挑戦の姿勢から大きな影響を受け、自分自身の見方や他者への見方が変わった。この体験から、自分のキャリアパスに対する視野が広がり、失敗を恐れず挑戦したいという思いが強くなった。

日程：2022/8/22(月)～8/28(日)

参加学生：10名

活動場所：オンラインもしくはシリコンバレー

備考：桑港赤門会 www.akamonkai.org



カリフォルニア大学バークレー校の時計塔



Apple本社

B20. ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！

～ハノイの学生・企業等との交流（訪問先はオーダーメイドで調整可能）～

主に企業訪問、現地学生との交流、市内観光を行なった。日系企業の現地法人に訪問して、ベトナムでのビジネスの困難さと可能性を学んだ。特に法的な規制の日本との違いについては、弁護士事務所を訪問して詳しく学ぶことができた。また、IT系スタートアップや技能実習生を送り出す機関を訪問し、彼らの視点を理解した。現地の日越大学の学生との交流を通じて、ベトナムについて多くを学び、市内観光ではベトナムの歴史と文化を体験した。これらの活動を通じて、自分自身の視野を広げ、多くの質問をするとともに日本についての質問に答えることができた。

日程：2022/8/9(火)～8/15(月)

参加学生：12名

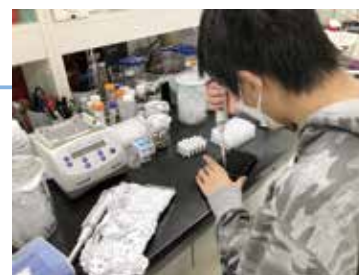
活動場所：ハノイ

備考：※日越大学について <https://vju.ac.vn/VietnamJapanUniversity.html>

【研究室プログラム】

C2. 先端的光イメージング技術を用いた 脳科学・神経科学研究体験

脳科学に興味があり、特に神経細胞のミクロな世界について知りたいと思い、この研究室を体験した。体験内容は、最初の週に様々な研究の概要を学び、次の週に興味のある研究を選んで先生方と共に実験を行った。具体的には、蛍光プローブを使って細胞の状態を可視化する研究に取り組んだ。脳科学の広範で深奥な知識を得られたこと、先生方の研究について詳しく知ることができたことが良かったと感じた。また、生物や医学の研究の具体例を体験できたことから、手ごたえのある活動と感じた。学問や研究について、一つひとつの研究や実験が他の研究や学問分野と繋がっていることを理解し、全ての研究に重要な意味があると感じた。この体験は、自身の学問の探求に対する情熱を増大させるものになった。



実験

日程：2022/8/15(月)～8/26(金)

参加学生：3名

活動場所：医学部教育研究棟8階

備考：東京大学大学院 医学系研究科 機能生物学専攻 細胞分子薬理学分野
<http://www.pharmacol.m.u-tokyo.ac.jp/>

C3. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

意識の発生に興味を持ち、森田先生の研究室の会議に2回参加した。大学院学生たちの研究紹介や進行状況を学び、研究とはデータ分析だけでなく多くの仕事が含まれることを理解した。特に、文系の研究においてもモデルを立てることの重要性に気づき、数学の知識を更に身につけることを決意した。大学院研究室の雰囲気が楽しく、博士課程への進学意欲を強くした。

日程：2022/8/1(月)～2023/3/31(金)

参加学生：8名

活動場所：大学院教育学研究科・身体教育学コース各研究室

備考：大学院教育学研究科 身体教育学コース <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

C4. 生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門

論文検索と分析方法について学び、実践的な活動を通じて様々なデータベースの使用法や、マッピングツールの活用法を習得した。対面でのサポートが充実していたので、理解を深めることができた。これまで未知だった新しい手法を学び、活用することができた。これは私の学習にとって実践的で有益だった。また、新しいツールを独学する際の挫折を避けるためのスモールステップの重要性を実感した。この経験を通じて、新しいツールを学ぶ際には体系的な情報を参考にする重要性を認識した。これを今後の学習や生活に積極的に活用していきたい。

日程：2022/10/26(水)～12/14(水)

参加学生：1名

活動場所：医科学研究所2号館大講義室（白金キャンパス）& zoom

備考：<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bioipcourse/learning/ensyu2.html>

C5. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

超臨界水は温度・圧力が臨界点を越えた状態の水で、新たな環境負荷の低い反応溶媒として期待されている。その超臨界水を利用した実験を研究室の講師や修士課程、博士課程の学生から一対一で指導を受けながら実際の研究環境で全ての機器操作を自分自身の手で行い体験することができた。

日 程：2022/9/6(火) - 9/9(金)

参加学生：1名

活動場所：柏キャンパス 環境棟

備考：大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 大島・秋月研究室

<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>

C6. みんなで翻刻ソン

「みんなで翻刻」プロジェクトに参加し、史料の翻刻方法を学んだ。史料の解読や内容の分析を行い、その過程でくずし字の知識や史料に関する背景知識を身につけた。独自に解読作業を進め、難易度の高い箇所は先生からのアドバイスを受けながら参加学生全員で協力して解読した。また、参加者からはWebページのユーザビリティの改善案が提案された。最終日には、新たに翻刻に取り組む史料のテーマ提案も行われた。この経験を通じて、古文書の翻刻には多角的な考え方や様々なアプローチが必要であることを学び、これを今後の勉強や生活に生かすことを意識した。

日 程：2022/8月 - 2022/9月

参加学生：7名

活動場所：地震研究所、またはオンライン

備考：みんなで翻刻 <https://honkoku.org/>

C7. DO-IT Japan (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology Japan) 2022・夏季プログラムへの参加

障害者との交流を通じて自己の偏見や誤解を改善し、彼らとの共通性を認識した。社会が障害者に対して提供する依存先の不足を理解し、それが障害を生む原因であると学んだ。また、医療現場の対話の重要性を認識し、医師が十分なインフォームド・コンセントを行うことの必要性を感じた。医師を志望する自分にとって、これらの学びは大きい。本プログラムを通じて障害者から見た世界の理解が深まり、彼らの視点を尊重することの大切さを学んだ。これらの学びを生活や進路選択に生かし、異なるバックグラウンドを持つ人々を理解するために、直接交流し、相手の立場を考え、他者から学ぶことを心掛ける。

日 程：2022/8/7(日) - 8/10(水)

参加学生：2名

活動場所：東京大学先端科学技術研究センター

備考：DO-IT Japan <https://doit-japan.org/>

C8. 知能移動ロボットの行動と制御

ロボットのプログラミングに取り組み、アルゴリズムの改良を行った。わずかなセンサーの値のずれが異なる動きを生むロボットの面白さと、プログラムが思った通りに動かない時の困難さを経験した。先生やTAの方々の助けを借りて問題を解決し、ロボットがゴールできるようになった時は大いに喜んだ。ロボットの想定外の動きから新たなアイデアが生まれることや、実際に手を動かすことの重要性を学んだ。また、正解のない課題に挑戦し、より良いものを作り出す過程が研究に繋がると感じた。この体験を通じ、研究は困難だけでなく、自分のアイデアを生かす喜びもあると認識した。

日程：2022/8/8(月)–8/10(水) 2022/9/20(火)–9/22(木)

参加学生：2名

活動場所：本郷キャンパス 工学部内施設

備考：移動ロボティクス研究室 <https://otalab.race.t.u-tokyo.ac.jp/>

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2023年3月6日（月）、本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールにて、体験活動プログラム報告会を開催した。報告会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場での出席人数を限定し、Zoomウェビナーによる配信を行った。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約280名が参加した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず藤井輝夫総長より、学びと社会を結び直すこの体験活動プログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通じた信頼の構築」のひとつの実践の形であり、様々な体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付ける機会であること、そして多くの学生に貴重な経験を積む機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。



司会担当の学生スタッフ



藤井総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」の授与が行われ、受賞された神奈川県三浦市様、在韓東京大学総同門会様、ソウル東大会様、島根県益田市様へ記念楯が贈られた。



特別功労賞授与の様子



特別功労賞授与の様子

続いて、5つのプログラム（「自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～」、「ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション」、「アラブ首長国連邦の「いま」、 「先端的光学イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験」、「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に生かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、プログラム関係者からそれぞれコメントをいただき、学生を受け入れた感想などを話された。



「自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～」



「ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション」



「アラブ首長国連邦の「いま」



「先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験」



「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」



梅檀山自治振興会
会長 前田幸雄氏



東京大学 中山幹康名誉教授



医学系研究科 並木繁行講師



情報学環・学際情報学府
開沼博准教授

最後に津田敦執行役・副学長より受入関係者への感謝の言葉が述べられ、閉会した。

今年度の報告会を実施するにあたり、9名のプログラム参加学生が当日の司会、受付及びタイムキーパー等の役割を担い、報告会の運営に参加したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



津田敦執行役・副学長の挨拶



発表学生・運営に携わった学生スタッフ

2022年度体験活動プログラム報告会

日時：2023年3月6日（月）

15：00～17：00

場所：伊藤国際学術研究センター

伊藤謝恩ホール（本郷キャンパス）

Online（Zoom）

式 次 第

一．開 会

一．総長挨拶

【藤井 輝夫 総長】

一．特別功労賞授与

一．活動報告（5プログラム）

- 自ら考える地域活性化策を实践する旅～富山県砺波市～
- ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション
- アラブ首長国連邦の「いま」
- 先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験
- 帰還困難区域の「街づくり」を考える。

一．副学長挨拶

【津田 敦 執行役・副学長】

一．閉 会

《司会》 教養学部前期課程文科一類2年
理学部生物化学科 4年

Hands-on Activities 2022

Debriefing Meeting

Date: Monday, 6 March 2023, 15 : 00～

Place: Ito Hall (Hongo Campus), Online (Zoom)

Opening

Message from the President

【FUJII Teruo, President】

UTokyo Award for Outstanding Contributions to the Hands-on Activities 2022

Presentations

- A trip to put into practice your own idea of measures for local revitalization
- Tonami City, Toyama Prefecture
- Visit to a Harvard Medical School Laboratory and Discussions
- The United Arab Emirates: Now
- Brain Science and Neuroscience Research Experience Using Advanced
Fluorescence Imaging Technology
- Considering “town development” in difficult-to-return zones.

Message from the Vice President

【TSUDA Atsushi, Vice President】

Close



体験活動プログラム

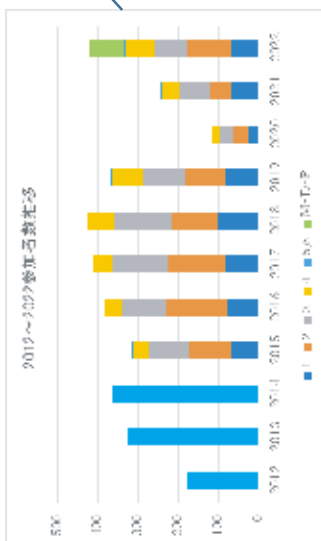
Hands-on Activities

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生及び大学院学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。
 本学独自のプログラムとして、2012年度から実施しています。

学びと社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通じた信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることができます。

フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、多岐にわたっています。



<2022年度・プログラム一覧>

海外プログラム

(全20プログラムより一部抜粋)

- ・グローバル都市ニューヨークでキャリアを切り開く生き方
- ・アラブ首長国連邦の「いま」
- ・シンガポールでビジネスを学んでみよう
- ・英国ロンドン、海外で働くとは
- ・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる

国内プログラム (全45プログラムより一部抜粋)

- ・地域包括ケア体験プログラム
- ・笑う東大 x 学が吉本 SDGs人材交換留学
- ・JICAの国内の現場で国際協力を知る
- ・山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう
- ・帰還困難区域の「街づくり」を考える
- ・日本の伝統文化である花火について知り、花火について考える

研究室プログラム (全7プログラムより一部抜粋)

- ・みんなで翻訳ソング
- ・先端的光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験

2022年度より、一部企画の参加申請資格を【学部学生のみー学部学生・大学院学生】に拡充し、より幅広い学生さんに参加いただけるようになりました。

参加学生の感想

- ・ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！
ベトナムの持つバリエーションを実際に目にすることができたのは大きな収穫だった。学部・学年バラバラの参加者との交流も非常に刺激的で、参加体験は、社会人になっても活き続ける、自身の重要な軸の一つであると考え。
- ・笑う東大 x 学が吉本SDGs人材交換留学「漫才ワークショップ」
観客を自分たちの世界観に引き込むには、観客との対話が必要で、そこが1つ難しいポイントだと感じた。観客との対話も、漫才だけでなく普段の発表やプレゼンテーションの場でぜひ生かしていきたいと思います。



参加学生が活動を発表する報告会では、参加学生有志が司会やスタッフを務めます。

本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部社会連携推進課体験活動推進チーム

taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.htm



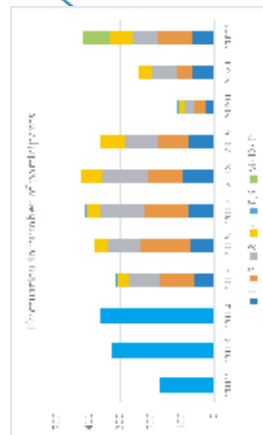


東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Hands-on Activities

What is "Hands-on Activities"?

The "Hands on Activities" is an experiential education program that allows undergraduate and graduate students of the University of Tokyo experience cultures and values different from those experienced in their lives to date. This program is unique to the University and has been implemented since FY2012. This program, which reconnects learning and society, is one practical form of the "building trust through dialogue based on empathic understanding" that the university aims to achieve. Through a variety of experiences, students will meet diverse people and acquire the ability to advance the quest for knowledge by seeking to know the unknown. The field can be domestic or international, and the content diverse, including volunteer and other social contribution activities, international exchanges, agriculture, forestry, fishery, local community experiences, and on-campus laboratory experiences.



Selection of programs from AY2022

Selection of the 20 Overseas Programs

- How to live and develop your career in the global city of New York
- The United Arab Emirates: Now
- Learn about business in Singapore.
- London, England. What it's like to work abroad
- If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

Selection of the 7 Lab-based Programs

- Flip-a-thon with everyone
- Brain Science and Neuroscience Research Experience Using Advanced Fluorescence Imaging Technology

From the 2022 academic year, some of the projects had their application eligibility changed so as to expand from [Undergraduate students only → undergraduate students and graduate students].
We are pleased to announce that we are now able to accept a wider range of students to participate in our events.

Selection of the 45 domestic Programs

- Community-based comprehensive care experience program
- Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program
- Learn about international cooperation at JICA's domestic sites
- Experience caring for goats, pigs, cows, and horses as well as riding the horses!
- Considering "town development" in difficult-to-return zones.
- Learn and think about fireworks, a traditional Japanese culture



非公開キャラクター
もりかも



Visiting UTokyo Alumni (USA)



Volunteer experience (Japan)



Field work experience (Hokkaido, Japan)



Work experience (in Tokyo)



Field work experience (Minami-Izu, Japan)

Participants' reports

• If you know Vietnam, you can see the future of Japan!

It was a great experience that I could actually see the vitality of Vietnam. The exchange with participants from different faculties and grades was also very stimulating, and I believe that this experience will be one of the important pillars of my own life, which will continue to be useful even after I enter the workforce.

• Laughing Todai x Learning Yoshimoto - SDGs Human Resources Exchange Program

I felt that dialogue with the audience is necessary to draw them into our worldview, which is one of the most difficult points. I would like to make use of this dialogue with the audience not only in my comic performances, but also in my daily presentations and presentations.



The debriefing sessions where participants give presentations are run by the students themselves

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





2022年度 体験活動プログラム活動報告

作成	2023年12月
編集	東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html